

I 研究主題について

1 研究主題

『英語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成』
～見方・考え方を働かせ、楽しく活動できる学習づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

子どもたちを取り巻く環境は急速に進展し、社会のグローバル化が加速している。その中で生きていくためには、英語の運用能力が欠かせないとし、異なる文化への理解やコミュニケーション能力が求められる。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現」が掲げられ、「何ができるようになるか」が明確化され、自分の思いや願いを表現したり、他者の思いや願いを受け止めたりするコミュニケーション能力を育成することが大切である。これらを受けて、中学年での外国語活動、高学年での外国語科が導入され、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する必要性が提言されている。これまでの成果と課題を踏まえながら、英語教育の充実・強化のための改善が求められている。

なお、本校は本年度より文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、「外国語科」に替え「英語科」に取り組んでいる。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「夢に向かい 心豊かで たくましく 自ら学ぶ 高木っ子の育成」である。目指す子ども像である「めあてに向かい、自ら学び、考え、表現する子ども」「礼儀正しく、思いやりがある、心豊かな子ども」「体を鍛え、心も体もたくましい子ども」を掲げ、「夢に向かい努力する子ども」の育成に取り組んでいる。この教育目標を具現化するために上記の研究主題を設定した。英語学習の推進は、豊かな心を持ち、めあてに向かって自ら学び、思いを表現する児童の育成につながるものである。様々なコミュニケーション活動を通して、児童が自分の思い・願い・夢を積極的に伝え合う姿、相手を思いやり他者と協調する姿、自分で課題を見つけ解決していく姿は、まさに本校の教育目標にある「心豊かで自ら学ぶ児童」の姿と言える。このように、本研究は本校教育目標の具現化に大きく資するものであると考える。

(3) 児童の実態から

児童の意識調査の結果から、約9割の児童が「英語学習は楽しい」「進んでチャンツ

やゲームをしたり話したりしている」と答えている。しかし、英語を聞き取ることや自分の気持ちを伝えることへの苦手意識を感じている児童もいる。一方、相手に伝わるように話そうと心掛けている児童は増加したが、相手の話を聞いてリアクションしている児童は多いとは言えない。さらに、「英語以外の学習で自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えている」については、そう思うと答えたのは7割だった。

以上のことから、思いを伝え合うことができる児童を育てていくために、英語に十分慣れ親しませる工夫やコミュニケーション活動の充実、他教科・他活動との関連を図った取り組みを進め、授業改善を図らなければならない。

3 研究主題の分析

「英語に親しむ」とは

- 英語の音声や表現に慣れ、基本的な表現を用いて、楽しみながらやりとりしたり発表したりすること。
- 日本語と英語を比較することで、英語特有の音声やリズムに気付くこと。

「進んでコミュニケーションを図る」とは

- 知識や技能を身に付けることに喜びや達成感を感じながら主体的に学習に取り組むこと。
- 自分のことを伝えたい、相手のことをもっと知りたいという思いを持ち、積極的に人と関わり合おうとすること。

「見方・考え方を働かせる」とは

- コミュニケーションの目的・場所・状況に応じて情報を整理し、考えを再構築すること。
- 知識・技能を身に付けるだけでなく、伝えたいことを相手に伝わるように工夫すること。

「楽しく活動できる学習」とは

- 自分の思いや考えたことが伝わる喜び、人と関わる心地よさを味わうことのできる学習。
- 互いの思いや願い、夢を伝え合うことの大切さを知り、「そうだったんだ。」「もっと伝えたい、相手のことを知りたい。」と感ずることができる学習。

II 研究の方法

1 研究の仮説

【仮説1】 単元を通じた授業を工夫し、人と関わり合う学習 活動を大切にした学習づくりを行えば、児童は進んでコミュニケーションを図ろうとするだろう。

【仮説2】 他国への興味・関心を高める環境づくりや他教科・体験活動と関連させた英語学習を行えば、児童は日常的に英語に慣れ親しんだり、意欲的に活動に取り組んだりして進んでコミュニケーションを図ろうとするだろう。

2 検証の視点

【仮説1：学習づくり】

- ① 興味・関心を高める場面設定
- ② 英語に慣れ親しませるための工夫
- ③ コミュニケーション活動の工夫
- ④ 評価の工夫

【仮説2：環境づくり】

- ① 異文化に触れる校内掲示
- ② 他教科との関連や学びの姿勢
- ③ 特別活動における主体性
- ④ 保護者や地域への啓発